

加世田市加世田中部地域地力増進対策指針

昭和62年4月17日策定

1. 地力増進地域内の土壌の性質

本地域の水田は、加世田川の流域に分布し、シラスを主な母材とする中粗粒質の沖積土壌である。大部分は中粗粒灰色低地土・灰褐色系であるが、一部に中粗粒グライ土も見られる。

土壌は、有機物や塩基類に乏しく肥よく度が低い。

普通畑は、台地上の緩傾斜地に分布し、厚層腐植質黒ボク土、表層腐植質黒ボク土及び淡色黒ボク土が大部分であるが、一部に細粒黄色土が見られる。

黒ボク土のほ場の有効土壌は、いずれも深い。しかし、塩基類や有効態りん酸含量が少なく、特に下層土はこれらの成分に乏しい。

黄色土のほ場は、腐植が少なく、有効土層も浅い。また、塩基類や有効態りん酸含量が少ない。

樹園地（茶）は、腐植に乏しい細粒黄色土で丘陵地の緩傾斜地に分布し、主要根群域が浅い。

2. 土壌の性質の改善目標

(1)水田

ア 作土の厚さは、15センチメートル以上とする。

イ 土壌のpHは、6.0から6.5までとする。

ウ 有効態りん酸含量は、乾土100グラム当たり10ミリグラム以上とする。

(2)普通畑

ア 作土の厚さは、黒ボク土では25センチメートル以上とし、黄色土では20センチメートル以上とする。

イ 主要根群域のちみつ度は、山中式硬度計で22ミリメートル以下とする。

ウ 土壌のpHは、5.5から6.5までとする。

エ 有効態りん酸含量は、乾土100グラム当たり黒ボク土では5ミリグラム以上、黄色土では10ミリグラム以上とする。

(3)樹園地（茶）

ア 主要根群域の深さは、20ないし40センチメートル以上とする。

イ 土壌のpHは、4.5から5.5までとする。

ウ 有効態りん酸含量は、乾土100グラム当たり20ミリグラム以上とする。

3. 土壌の性質を改善するための資材の施用に関する事項及び耕うん整地その他地力の増進に必要な営農に関する事項

(1)水田

ア 酸性矯正には、石灰資材と併せて、珪酸資材も施用する。

イ たい肥等の有機物を積極的に施用し、土壌中の腐食含量の増大を図る。その場合、充分腐熟したものを施用する。

ウ パワーディスク等適切な耕うん方法を選択し、作土深を確保する。

(2) 普通畑

- ア 石灰資材の施用により土壌のpH及び塩基バランスの改善を図る。
- イ たい肥等の有機物は、充分腐熟したものを施用する。
- ウ 深耕する場合は、必要に応じて石灰資材やりん酸資材を施用し、土壌の肥よく化を図る。

(3) 樹園地 (茶)

- ア 酸度矯正及び塩基類の補給のために石灰資材を施用する場合は、pHの上がり過ぎに気をつける。
- イ りん酸資材は、土壌pH及び塩基バランスに応じて選択する。
- ウ 深耕により、根群域の拡大を図る。

4. その他地力の増進を図るために必要な事項

- (1) 有機物の確保に当たっては、堆肥センター等を計画的に利用するとともに自給できる有機物資源を積極的に活用する。